

《 巻 頭 言 》

日本薬剤学会に期待されていること

杉 林 堅 次* Kenji Sugibayashi
城西大学薬学部・本会平成 22 年度会長



日本薬剤学会の使命は、本学会を構成する薬剤師、研究者、技術者、産学官の諸分野で薬剤学に関心のある個人あるいは団体会員が、全体で、グループで、または個人で、薬剤学の進歩および普及をはかり、もって科学、技術、文化の発展に寄与することである。本学会は、1985年の設立後4半世紀を迎え、また、文部科学大臣より社団法人設立の認可をいただいて5年目に突入する。この間、年会や各種セミナー・講習会・シンポジウムを開催し、会誌を刊行し、また、広報委員会や将来ビジョン委員会などの多くの委員会活動を活発に行ってきた。各会員はこのような活動に刺激・啓発され、さらなる活動を引き起こしていくような環境・状況を作られんことを希望している。そのためにもっとも重要なことの1つは、会員相互の情報の共有である。薬剤学や薬剤学会が対応する領域をより深く、かつ広くすることが大変必要であるが、一方で、先に示した構成員全体が活動を理解し、広く連携をとっていくことも重要である。そのため、本学会は社団法人から公益法人に移行する計画を練っている。財政基盤や公益性の充実など、課題は山積しているが、会員の皆様と連携して進めていきたいと考えている。

会員の皆様もお感じのように、薬学をとりまく環境は、大学などの教育機関、病院や薬局などの医療現場、製薬や関連企業、そして薬学に関連する官公庁、どれをとっても最近大きく変動している。教育機関では、薬剤師養成課程が6年制となり、今年是新制度実務実習初年度を迎えている。薬剤師がかかわる世界でも、診療報酬の改定、チーム医療の推進、患者把握のためのフジカルアセルメントの是非など、新しい流れがある。製薬業界は研究開発のグローバル化とジェネリック医薬品産業の成長などが並行して進んでいる。今後、社会はどのような人材を必要とし、大学はどのような学生を育成するか。薬学を取り巻くすべての人が、まさに変革の嵐の中にいる。

このような中、本会会員の日常においても、業務にかかわる種々方法論に変革が求められ、従前は正しかった行動や規範が現在では通じなくなっているものも多いと察する。加えて、最近では多数の学会の会員数やアクティビティが右肩下がりにあるように聞いている。しかし、このような状況であるからこそ、本学会は、薬剤学の真髄を見極め、境界領域を取り込み、さらにグローバル化を進めることによって、新しい時代に対応できる組織になることが期待される。薬剤学会の進む方向を間違わないためにも、今後は会員相互の情報を共有して、公益性をさらに高め、名実ともに公益法人になるべく、会員の皆様と協力して歩んでいきたいと思っている。

*富山大学薬学部卒業・同大学院修士課程修了。薬学博士。一貫して薬物を始めとする化学物質の経皮吸収の研究を展開。現在、城西大学薬学部長・生命科学研究センター所長・教授（薬粧品動態制御学講座）。連絡先：〒350-0295 坂戸市けやき台 1-1 E-mail: sugib@josai.ac.jp